



第二鉱への統合が提案された第一鉱(旧三川鉱)表門

働き、生きるための賃金を

1方480円(6%)は最低要求 '89春闘、18日から交渉

- ①本人給、一方当たり四八〇円(六%、一三、二〇〇円)
- ②家族手当 第一順位月額一六〇〇円(現行一、〇〇〇円)
- ③第二順位以下四、五〇〇円(現行二、五〇〇円)
- ④最低賃金 坑内員一方当たり六、二〇〇円、坑外員一方当たり

春闘要求

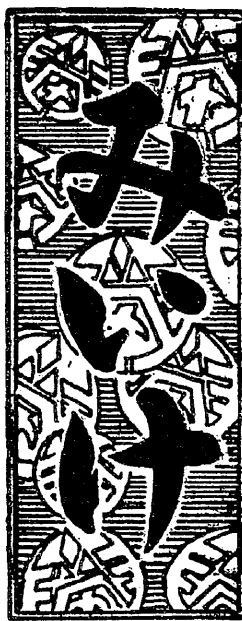
賃金

八九春闘はすでに後半に突入し、炭労は、三月二十八日から二日間臨時大会を開いて春闘方針を決め、大会終了後石炭各社に対して要求書を提出、事務折衝を経て四月十八日から交渉に入り、月末をめどに解決をはかります。なお、三池港務所は二十四日からの交渉が予定されています。

春闘要求

賃金

炭労の春闘は、三年前の一八九六年がゼロ、一昨年は九五円、昨年は一三〇円と、石炭情勢のきびしさの中での合理化の進行によって超低額に抑えられてきました。合理化による労働条件の低下、福利・厚生などの切り下げとともに、実質的には賃下げの状態が続



発行所
三池炭鉱労働組合
大牟田市入船町1番地
電話(53)3033~4
編集兼人 田口芳博
発行 半年間1,800円 送料共
振替口座番号
労働金庫大牟田支店
825-0000569

臨時休業 反対一斉行動へ

臨時休業 反対一斉行動へ
とき 4月16日 午前10時
ところ 荒尾労働会館ホール
参加 組合員・訴訟団・主婦
会、全員

具体的には別途協議したい。

大合理化への布石が 労働者への度重なる犠牲強要許さず

三井石炭三池鉱業所(黒田裕史所長)は三月二十四日、石炭鉱業審議会(需給・価格部会)で一九八九年度の基準炭価据え置きと、国内炭引き取り総量が前年比一四一万吨減の一、一四七万吨に決まったことをうけて、三池炭鉱の緊急異常貯炭対策としての臨時休業の実施と、第九次策を展覧した一鉱体制化を提案。三池労組は、臨時休業反対の立場から要求を出して交渉、一鉱体制についても要求をまとめ、解明交渉を経て合理化反対のたたかいを進めます。

提案内容(骨子)

- 一、臨時休業の実施
三月末の貯炭見込みは二、九四〇千トンで年間生産量に匹敵する異常貯炭となっている。第
- 二、第一鉱と第二鉱の統合など

に平常貯炭にすることが目標であり、緊急対策として四月(三日間)、六月(三日間)に計六日間の臨時休業を実施し、七月から九月については別途提案し、実施したい。

今後、なお一層のコスト削減対策を図るために、基本方針の承認を得て準備に着手する。

三池労組の態度

この提案は、当面は臨時休業の実施ですが、一昨年と昨年の二年連続の大合理化に見られるように、坑口統合(一鉱体制化)は必然的に人員削減につながるものと考えられます。

時の問題

存立基盤崩れた竹下内閣

国民の政治意識高まる

三月下旬に行われたマスコミの世論調査による竹下内閣の支持率はますます下がる一方。毎日新聞(24・26日調査)では、日新聞(24・26日調査)では、ついに支持率わずか九%、不支持率六%、読売(25・26日調査)は支持二二%、不支持七四%と、いずれも各社の調査結果が前調査より悪化している。毎日では「関心が下がっている」という層が目に見えて減り、二六%に激減、読売でも、内閣支持・不支持について「その他」が前回の二二%から一六%・五%から二二%・九%に減っている。共同通信でも「分らない・無回答」が前回(一月)の七・九%から四・七%に減っている。

第60回メーデーへ参加を

メーデー前夜祭	メーデー本祭典	メーデー前夜祭	メーデー本祭典
4月28日(金)	5月1日(月)	4月28日(金)	5月1日(月)
17時30分	10時	17時30分	10時
文化会館小ホール	笹林公園	労働会館ホール	競馬駐車場

地底

▼校に始まって、つじ、ぼたん、藤など季節の花を愛しながら身心ともにリフレッシュしたいところだが、子供の入進学・就職に加え、またまた合理化の「春風」。消費税、政界の「乱」とともに息づかぬ有様。

▼衆院予算委で自民党単独で予算案の審議入り強行。一億五千万円のリクルート汚染にまみれた竹下首相の国会釈明も「反省」「潔白」は「はなはだ」「けじめ」を繰り返すだけ。「浮沈」をかけた逃げの一手は国民向けでなく、「中曾根顧問」への「永田町」向けか。したたかな政権維持戦略への「風圧」はさらに加速する。

▼政府は、消費税やリクルート汚染の広がりで国民の怒りが騒然とするなかで、年金改悪法案を国会に提出。消費税と同じく「高齢化社会の財源確保」がうたい文句だが「軍拡の財源づくり」であることは「見え見え」。「支給開始の先送り」「保険料値上げ」で国民の生活はますます窮地に。消費税廃止とともに廃案しかない。

▼第八次石炭政策答申直前に閉山となった高島の人口は、当時の四分の一の千四百五十人。三菱が「誘致」したヒラメ養殖会社など三社の従業員はたったの二十人。「後は野となれ山となれ」のたとえ通り、今また発電所の閉鎖で従業員三十三人を解雇とか。その「棄民」ぶりには三井と同じ。これが産業構造転換の「象徴」だ。

▼春闘を控えて合理化提案。「坑口統合」は大規模人員削減の前兆。第一鉱(有明鉱)は高田町。実施されれば大牟田は「石炭の街」ではなくなる。「石炭と有明海・アジア」をテーマに「観光開発」というが、「炭鉱のある街」から「炭鉱もある街」として生き残るか「石炭がある街」(海底)になるか、その岐路に立つ。